

令和4年度千葉大学大学院
医学薬学府
修士課程（10月入学）
学生募集要項

医科学専攻
総合薬品科学専攻

令和4年6月

千葉大学

新型コロナウイルス感染症に関する国内状況により、募集要項の内容に変更が生じる可能性があります。
変更した際の変更内容は、下記ホームページに掲載します。

千葉大学大学院医学研究院・医学部HP <https://www.m.chiba-u.ac.jp/>

千葉大学大学院薬学研究院・薬学部HP <https://www.p.chiba-u.jp/>

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

(令和4年10月入学)

1. 募集人員

専攻名	募集人員
	令和4年度10月入学
医科学専攻	若干名
総合薬品科学専攻	若干名

2. 出願資格

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び令和4年9月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4年9月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年9月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年9月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4年9月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4年9月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 令和4年9月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものと及び令和4年9月までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者は、3ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

令和4年7月20日（水）から7月22日（金）まで（土日祝を除く。）

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：応募に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する（総合薬品科学専攻について、複数の志望がある場合は、第一志望だけでなく第二志望以降も）指導教授に必ず照会の上出願してください。

(2) 願書提出先

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係 〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記の書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
①入学願書	本大学院所定の用紙。必ず裏面の貼り付け欄に検定料の収納証明書をのり付けしてください。
②写真票・受験票	本大学院所定の用紙
③検定料（30,000円） ※外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要です。	下記により、必ず出願前に、検定料を払い込んでください。 (1) 検定料払込期間： 令和4年6月20日（月）から7月22日（金）まで (2) 払込方法： 「E-支払いサービス」を利用し、コンビニエンスストア決済、銀行ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカードのいずれかにより払い込んでください。 【受験料・選考料のお支払い／大学院／千葉大学大学院／第一選択：医学薬学府／第二選択：修士課程／第三選択：医科学専攻 令和4年10月入学又は総合薬品科学専攻 令和4年10月入学／第四選択：大学院検定料3万円】を選択してください。決済完了後の修正・取消はできませんのでご注意ください。 ※払込手順等はE-支払いサービスWebサイトの「利用ガイド」を参照してください。ご不明な点は、同サイトの「よくある質問」を確認の上、E-支払いサービスサポートセンターに問合せってください。 ※検定料のほかに所定の利用手数料（志願者負担）がかかりますのでご了承ください。 (3) 払込後の手続： 収納証明書を入学願書の裏面に貼付し提出してください。収納証明書の取得は以下のとおりです。 ・コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキを除く）の場合 →店舗で受け取ってください。 ・銀行ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカード、コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキ）の場合 →E-支払いサービスWebサイトの「申込内容照会」から印刷してください。 ■ E-支払いサービス (https://e-shiharai.net/) インターネット上から、コンビニエンスストア、ペイジー、ネットバンキング、クレジットカードから希望の払込方法を選択の上、検定料の払込等ができるサービスです。 ※当サイトへの事前申込が必要です。 ■ 海外から志願される方へ ※英語版サイト (https://e-shiharai.net/ecard/) こちらはクレジットカード決済のみの案内となります。決済後、印刷した「Result Page」を出願書類と共に提出してください。



出 願 書 類 等	摘 要
④卒業（見込）証明書	出身大学（学部）長が証明したもの。
⑤成績証明書	出身大学（学部）長が作成したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。
⑥学位授与証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの。
⑦学位授与を申請する旨の証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したもの。
⑧写真 （受験票・写真票貼付用2枚）	上半身、正面、脱帽のもので、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したもの。
⑨受験票送付用封筒	長型3号封筒（23.5cm×12cm）に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手（84円分）を貼り同封してください。
⑩履歴書（外国人用）	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）
⑪住民票 （外国人志願者のみ）	市区町村長が交付したもの。（在留期間、在留資格が明記してあるもの。） なお、外国人登録をしていない者は、提出不要。
⑫パスポートの写し （外国人志願者のみ）	氏名等が記載されているページの写し。
⑬TOEFL-iBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IPのスコアカードの写し （総合薬品科学専攻志願者のみ）	平成31年4月1日以降に受験した、TOEFL-iBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IPの成績が記載されたスコアカードの写しを提出してください。
⑭入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者は、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

提 出 書 類	摘 要
入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
出願資格認定申請用研究業績調書	本大学院所定の用紙（該当する場合のみ）
成績証明書	出身学校（学部）長が作成したもの 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書
出身学校（学部、学科等）規程	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの
履歴書（外国人用）	本大学院所定の用紙（外国人のみ）

(2) 提出期間

令和4年7月4日（月）から7月6日（水）まで

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

- (4) 審査及び認定提出書類により審査し、認定します。
- (5) 審査・認定の結果は、令和4年7月15日（金）までに本人宛通知します。

6. 選抜方法及び期日

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。なお、文部科学省国費外国人留学生は、筆記試験を免除します。

(1) 医科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和4年8月19日（金）	専門科目（主たる指導を希望する指導教授の専門科目（研究領域）は別表「指導教授別研究テーマ」を参照してください。）	10：30～11：30
	英 語（医科生命科学英語）	13：30～15：00
	面接試験	15：30～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。

学力検査科目	配点
専門科目	100
英 語 （医科生命科学英語）	200
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所 千葉大学亥鼻キャンパス

(2) 総合薬品科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和4年 8月9日（火）	基 礎 科 目 { 基礎生物・基礎化学（必須）* 物 理 化 学 （ 選 択 ） 有 機 化 学 （ 選 択 ） 生 物 化 学 （ 選 択 ） （必須問題のほか、選択問題1題を 検査場で選択して解答する。）	10：00～11：30
	面 接	13：00～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。また、研究領域によっては、受入人数の関係で不合格となることがあります。

学 力 検 査 科 目	配 点
外国語（英語） （TOEFL-iBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IPのスコアを100点に換算）	100
基礎科目	200
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所 千葉大学亥鼻キャンパス

*基礎生物・基礎化学は、大学教養課程で学修する内容に相当する範囲から出題します。なお、基礎生物は生化学分野、基礎化学は有機化学分野から出題します。

7. 合格者発表

令和4年9月5日（月）13時

薬学部掲示板（医薬系総合研究棟Ⅱ）に発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

8. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、医科学専攻は令和4年8月18日（木）10時に、総合薬品科学専攻は令和4年8月8日（月）10時に、それぞれ薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

9. 入学手続等

- (1) 入学手続日時・場所

日 時：令和4年9月16日（金）

場 所：千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

合格者は、本学府に直接向いて入学手続を行ってください。入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので、十分注意してください。

- (2) 入学手続の際に納入する経費

- ① 入学料 282,000円
- ② 学生教育研究災害傷害保険料（学研災付帯賠償責任保険含む）
- ③ 外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険（留学生のみ）

- (注) 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。

- 2 授業料の納入については、入学年度の前期授業料は11月（2年目以降は10月となります。）に、後期授業料は4月に、それぞれ口座振替により納入願います。口座振替手続等の詳細は、入学手続関係書類により改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料は、それぞれ321,480円（年額642,960円）です。

- 3 入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

- 4 文部科学省国費外国人留学生は、入学料、授業料は必要ありません。

- 5 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

- 6 入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は千葉大学ホームページ<https://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧いただくか、学務部学生支援課生活支援係（電話043-290-2178）へ問合せってください。



- 7 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険料は、令和4年9月30日（金）までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。

※当該保険について

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。又、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。なお、保険料の改定が行われた場合には、

改定時から新保険料が適用されます。詳細は、学務部学生支援課 課外活動支援係（電話 043-290-2162）へ問合せてください。

8 入学手続完了者が9月30日（金）17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(3) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。

(4) 提出書類、その他入学手続上の詳細は、合格者本人に別途通知します。

【問合せ先】

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻 1 - 8 - 1

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

電 話 043-226-2009（医科学専攻）

043-226-2862（総合薬品科学専攻）

E-mail sah5234@office.chiba-u.jp（医科学専攻）

yakugaku-in@chiba-u.jp（総合薬品科学専攻）

電話での問合せは、9時から17時までです。

ただし、土・日曜日・祝日は除きます。

医学薬学府案内

1. 入学者受入れの方針

千葉大学大学院医学薬学府は、医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と創造的医学薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻

先端医学薬学専攻が求める入学者

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

(2) 先進予防医学共同専攻

先進予防医学共同専攻が求める入学者

先進予防医学共同専攻は、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤とし、新たな方法論として、オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防まで包括した個別化予防を実践できる人材の育成を目指しています。先進的な予防医学研究に熱意を持って取り組む意欲あふれる学生の入学を求めています。

【3年博士課程】

先端創薬科学専攻

先端創薬科学専攻が求める入学者

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献する先端的研究者を目指す人を求めています。

【修士課程】

(1) 医科学専攻

① 医科学専攻が求める入学者

医科学専攻は、新たな学問体系を網羅する多様な知識を備え、科学の社会的役割ないし責任を正しく理解できる豊かな人間性を持ち、かつ21世紀の国民のニーズに応え得る医学・医療系の人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、一般的基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った学生の入学を求めています。

(2) 総合薬品科学専攻

① 総合薬品科学専攻が求める入学者

総合薬品科学専攻は、総合科学である薬学の高度な知識を身に付けるとともに、疾病の診断・治療・予防に用いられる医薬品の社会的諸側面を正しく理解できる人材の育成、さらにグローバルに展開する基礎から応用に至る医薬品開発研究を自立的に担う人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った意欲ある学生の入学を求めています。

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻から構成されています。

修士課程

専攻	取得できる学位
医科学専攻	修士（医科学）
総合薬品科学専攻	修士（薬科学）

4年博士課程

専攻	取得できる学位
先端医学薬学専攻	博士（医学）又は博士（薬学）
先進予防医学共同専攻	博士（医学）

後期3年博士課程

専攻	取得できる学位
先端創薬科学専攻	博士（薬科学）

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士（医学）又は博士（薬学）のいずれかが取得できます。

学位論文の指導については、別表「指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修し易い環境を整備した上で、すでに教育研究の現場において活躍している人材やすでに社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況が異なりますので、この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会の上、出願してください。

(別表)

指導教授別研究テーマ

医科学専攻

備考 ※令和5年4月1日より担当変更予定

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	分子腫瘍学 金田 篤志	1. 発癌のエピジェネティクス 2. 細胞の発癌防御機構におけるエピジェネティクス 3. 環境要因に対する細胞のエピゲノム変化 4. エピゲノム異常を誘導する分子機構 5. 発癌ドライバーとなるエピゲノム異常やその責任因子を標的とする低分子化合物の開発
	発生再生医学 斎藤 哲一郎	1. 神経系発生の分子機構の解析 2. 神経幹細胞の分化能の解析と制御 3. 神経細胞の個性獲得機構の解析 4. 神経回路網の構築と高次神経機能への役割の解析
	機能形態学 山口 淳	1. 白質解剖と神経画像 (Tractography, fMRI) による構造的、機能的な脳コネクトーム (Connectome) 解析 2. 神経変性疾患の発症機序の解明 3. 脳梗塞の病態解明 4. イメージング技術を用いた生殖細胞機能発現の解析 5. 精子形成機構, 精子成熟, 輸送機構とその破綻の解析
	代謝生理学 三木 隆司	1. 糖・エネルギー代謝の制御機構 2. 分泌現象の分子メカニズム 3. 遺伝子改変動物を用いたインスリン分泌と作用の病態解析 4. 電気的興奮細胞の活動調節 5. 神経・内分泌細胞の細胞内シグナル間クロストーク
	遺伝子生化学 (未定) 担当教員: 岩瀬 克郎 (講師)	1. 行動, 代謝, 神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構 2. 脳の老化と神経変性疾患発症のメカニズム 3. 血管新生を制御する化合物の探索と開発
	細胞分子医学 古関 明彦	1. 細胞分化や器官形成におけるエピジェネティック制御の解明 2. ヒト iPS 細胞由来の免疫細胞を用いたがん治療技術の開発 3. ES 細胞やその他の幹細胞を用いた人工胚合成技術の開発 4. アトピー性皮膚炎など慢性炎症疾患の発症メカニズムの解析 5. ヒトナীব iPS 細胞とプタ TS 細胞 (栄養膜幹細胞) を用いた異種人工胚の作製及び解析 6. 多色蛍光レポーターを用いたマウス原始内胚葉の細胞運命の解析

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
基 礎 医 科 学	微生物資源学 (未定) 担当教員： 高橋 弘喜（准教授） 矢口 貴志（准教授）	1. アスペルギルス症など真菌感染症における病原性発現機構・感染機構の解析 2. 真菌，放線菌のゲノム解析，系統解析，分子疫学的解析 3. 病原真菌・放線菌と宿主の相互作用（受容体等）の研究 4. 病原真菌・放線菌の分子生物学的・化学的および形態学的手法を用いた統合系統解析および分子疫学 5. 分子生物学的手法を用いた病原真菌・放線菌の機能遺伝子・2次代謝産物に関する研究
	疾患システム医学 眞鍋 一郎	1. 生活習慣病における慢性炎症の分子機構 2. 組織マクロファージ多様性の解明 3. 長鎖非コードRNA（lncRNA） 4. 臓器間連携による恒常性維持機構と病態 5. 心血管疾患・リンパ浮腫への新規治療法開発
	アレルギー・臨床免疫学 中島 裕史	1. アレルギー性炎症の制御機構の解明 2. サイトカインシグナル伝達機構の解明 3. 気管支喘息の病態解明 4. アレルギー性疾患の新規治療法の開発 5. 膠原病における臓器障害機構の解明 6. Tリンパ球の分化・活性化機構の解明とその抑制による疾病制御 7. 自己免疫疾患の治療反応性予測 8. 自己免疫疾患の新規治療法の開発
	病原細菌制御学 (未定) 担当教員： 清水 健（准教授）	1. 病原細菌の毒素産生に関する研究 2. 細菌毒素の作用機序に関する研究 3. 病原細菌の病原性制御法の開発と臨床応用に関する研究 4. 病原細菌の宿主防御機構に対する抵抗性に関する研究 5. 抗菌薬の新規使用方法の開発と臨床応用に関する研究 6. 高病原性細菌の検出方法の開発と臨床応用に関する研究
	分子ウイルス学 (未定) 担当教員： 齋藤 謙悟（准教授）	1. ウイルスの分子疫学 2. ウイルス遺伝子の転写調節機構 3. 腫瘍ウイルスと宿主遺伝子の相互作用 4. 発がん関連宿主遺伝子 5. ウイルスベクター
	感染生体防御学 (未定) 担当教員： 彦坂 健児（准教授）	1. 寄生性原虫のミトコンドリアに関する研究 2. マラリア原虫類がもつ退化した葉緑体の機能解析 3. 寄生性微生物のオートファジー分子機構と生理学的意義の解明 4. 寄生性原虫の薬剤耐性獲得機序の解明 5. 組織透明化によるトキソプラズマの組織移行とその分子機構の解析 6. 寄生虫感染症に対する生薬の効能に関する研究 7. 寄生虫感染症の分子疫学

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
基 礎 医 科 学	実験免疫学 木村 元子	1. Tリンパ球の発生・分化機構の解明 2. Tリンパ球の機能解析と疾患制御 3. 胸腺機能に着目した免疫システム形成と疾患との関わりに関する研究 4. 自己免疫疾患や炎症性疾患の病態解明とその制御 5. 抗腫瘍免疫応答におけるTリンパ球の役割の解明とその制御 6. 新たながん免疫療法の開発
	免疫発生学 平原 潔	1. 免疫システムの形成と維持の生物学 2. 免疫システムと他の生体システム（神経系・代謝系など）の連関 3. 病原性記憶T細胞の機能分化における転写調節とクロマチンリモデリング 4. 組織常在性記憶T細胞の機能分化・維持機構の解析による“組織炎症記憶”の解明 5. 組織線維化をはじめとする難治性炎症性疾患の病態形成機構の解析と制御 6. アレルギー疾患（喘息、花粉症）の発症機構の解明と新たな治療法開発研究
	疾患生命医学 *幡野 雅彦	1. 発生工学技術を用いた疾患モデルマウスの作製と解析 2. 腸管神経分化の分子機構とその異常による疾患病態解析 3. 腸管神経系と免疫系の相互作用解析 4. 肺胞形成の分子機構と再生医療への応用 5. p38MAPキナーゼの病態生理的機能の解析 6. 炎症性肺疾患の成立機構の解明と細胞治療の開発 7. 成体海馬由来神経幹細胞のin vitro増幅法の開発と治療応用
	イノベーション医学 (未定) 担当教員： 倉島 洋介（准教授）	1. 粘膜免疫の分子細胞生物学 2. 炎症性腸疾患・大腸がんの予防と治療法の確立に向けた粘膜免疫研究 3. 病原性腸内細菌に対する生体防御機構の解明 4. アレルギーの根治を目指したアレルギー抑制型免疫細胞誘導機序の解明と活用 5. 脳腸相関に関する研究
	イノベーション再生医学 江藤 浩之	1. エピゲノム情報を基にした新規ヒト造血幹細胞増幅系の確立 2. エピゲノム情報を基にした血液腫瘍への創薬開発 3. ヒト血液系細胞を再生する人口骨髄の開発 4. 疾患iPS細胞を用いた創薬開発
	臨床感染症学 (未定) 担当教員： 渡邊 哲	1. アスペルギルス症を中心とした真菌症における病原因子と感染機構の研究 2. 真菌症の診断・治療法の研究 3. 真菌症の疫学及び抗真菌薬耐性機序の研究 4. 環境内の真菌の制御に関する研究（院内感染を含む） 5. 真菌に起因するアレルギー性肺疾患の研究 6. 輸入真菌症の疫学及び診断・治療法の研究

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	感染免疫学 米山 光俊	1. 感染に应答した生体防御誘導の分子メカニズムの解明 2. ウイルスセンサー分子による非自己核酸認識の分子機構 3. ウイルスセンサーを介した細胞内シグナルとその生理機能 4. 遺伝子改変マウスを用いた真菌センサー分子の生理機能の解明 5. 遺伝子改変マウスを用いた炎症性疾患発症機構の解析 6. Th17 細胞と 3 型自然リンパ球の分化・機能解析 7. 腸内細菌・真菌叢による宿主病態制御 8. 免疫細胞による腸管上皮細胞の糖鎖修飾誘導・制御機構 9. 微生物による感染と共生機構の解明
	感染症制御学 石和田 稔彦	1. インフルエンザ菌感染症の疫学及び病原因子解析 2. 肺炎球菌感染症の疫学及び病原因子解析 3. B群レンサ球菌感染症の疫学及び病原因子解析 4. 黄色ブドウ球菌感染症の疫学及び病原因子解析 5. 難治性呼吸器感染症の診断・治療・予防法の開発 6. 小児真菌感染症の診断・治療・予防法の開発 7. 予防接種のリスクコミュニケーション
	免疫制御学 藤井 眞一郎	1. 自然免疫と獲得免疫の連結機構と細胞生存に関する研究 2. 樹状細胞を中心とする抗原提示細胞の分化、免疫シグナルに関する研究 3. 腫瘍免疫 1（がん免疫抑制機構解明に関する研究） 4. 腫瘍免疫 2（がん免疫賦活機構解明に関する研究） 5. がんに対する免疫療法の新規開発 6. がんに対する複合的免疫療法検討に関する研究 7. 感染症に対する免疫療法の開発
	免疫制御学 大野 博司	1. 腸管免疫における上皮細胞の役割の解明 2. 腸内細菌叢の生理的意義の解明 3. 細胞内小胞輸送機構の解明 4. 樹状細胞の免疫応答調節機構の解明と細胞療法への応用 5. 担癌宿主における腫瘍免疫機構の解明
展開医科学	薬理学 安西 尚彦	1. 新規トランスポーターの分子同定・機能解析によるトランスポーター分子標的治療薬の開発 2. トランスポーター機能制御の分子機構解明と「トランスポートソーム」修飾治療法の開発 3. 腫瘍特異的アミノ酸トランスポーターを分子標的とする新規抗がん薬開発 4. 腎尿細管尿酸トランスポーターを分子標的とする新規高尿酸血症治療薬開発
	薬物治療学 石井 伊都子	1. 特殊な病態における薬物投与設計に関する研究 2. 効果及び副作用の解析による薬物治療の提案に関する研究 3. 高脂血症における薬物動態に関する研究 4. 血管の異常に関する薬物代謝の変化

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
展 開 医 科 学	和漢診療学 (未定) 担当教員： 平崎 能郎 (特任准教授)	1. 漢方医学での診断の標準化 2. 漢方方剤の薬理と創薬研究 3. 東西医学融和の治療学 4. 漢方治療の薬剤経済学的解析 5. 抗ガン作用のある天然薬物の解析
	腫瘍病理学 池原 譲	1. 近赤外波長域 (1,000-1,800nm) イメージング技術の開発と、これを利用した画像診断学の創成 2. がんの浸潤転移に関わる分子の発現・機能制御メカニズムの解析と、これを標的とする診断治療薬の探索研究 3. 初期発生に関わる分子群の細胞分化・増殖・発がんにおける機能の分子生物学的解析 4. 遺伝子改変技術を用いた膵管がんを発症するマウスの作成と、これを用いた発がんメカニズムの解明 5. モデルマウスを利用した検査診断ならびに、治療アプローチの開発研究 6. 解剖病理・外科病理
	診断病理学 池田 純一郎	1. 悪性腫瘍における幹細胞的性格を制御する因子の解析 2. 悪性腫瘍の病理組織学および分子生物学的解析 3. 悪性腫瘍の臨床病理学的解析 4. 悪性リンパ腫の臨床病理学および分子生物学的解析 5. 新規病理組織診断学的手法の開発 6. 細胞診断学的手法を用いた研究
	病態病理学 (未定) 担当教員： 岸本 充 (准教授)	1. 悪性腫瘍の生物学・分子生物学 2. 腫瘍の分化転換機構の解明 3. 転写因子による腫瘍の制御 4. 表現形転換に注目した基礎的生物学
	呼吸器内科学 鈴木 拓児	1. 肺高血圧症・肺血栓塞栓症・肺循環の病態解析と治療戦略に関する研究 2. 間質性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 3. 慢性閉塞性肺疾患・アレルギー性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 4. 胸部悪性腫瘍（肺癌・悪性中皮腫など）の病態解析と治療戦略に関する研究 5. 呼吸器感染症（真菌感染症・抗酸菌感染症など）の病態解析と治療戦略に関する研究 6. 肺サーファクタント関連疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 7. 睡眠時無呼吸症候群の病態解析と治療戦略に関する研究 8. 肺の免疫学の研究 9. 肺の再生医学に関する研究 10. 呼吸器疾患に対する遺伝子・細胞治療に関する研究

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
展 開 医 科 学	泌尿器科学 市川 智彦	1. シスチン尿症の責任遺伝子に関する遺伝学的研究 2. 腎癌、尿路上皮癌の遺伝子診断の研究 3. 進行性腎癌における腫瘍免疫の研究 4. 尿路悪性腫瘍における免疫組織学的研究 5. 前立腺癌における免疫組織学的研究 6. 前立腺癌における癌抑制遺伝子・転移抑制遺伝子の研究 7. 前立腺癌のアンドロゲン依存性喪失機構の研究 8. 遺伝カウンセリングに関する研究 ☆遺伝カウンセラーコースに出願を希望する者は、泌尿器科学 研究領域に出願してください。
	消化器内科学 加藤 直也	1. 進行肝細胞癌における重粒子線治療と免疫チェックポイント阻害剤による革新的治療開発 2. 門脈圧亢進症の病態制御からみた肝硬変の病態解明および新規治療の開発 3. 胆膵癌の早期診断および治療効果予測のための臨床的検討と横断的オミクス解析によるバイオマーカー探索 4. 進行胆膵癌に対する治療薬探索を目的とした次世代シーケンサーを用いた網羅的解析 5. 胆道閉塞に対する内視鏡的インターベンションの臨床的検討 6. 早期消化管癌に対する低侵襲内視鏡治療の有効性に関する研究 7. 早期消化管癌に対する遺伝子、及び機能的側面から見た病態解明 8. IBD 治療薬の反応性および副作用出現と腸内微生物との関連 9. 肝臓における自然免疫／獲得免疫のメカニズム解明と新規免疫療法の創出 10. 疾患モデルマウスを用いた難治性肝疾患の発症／進行機序の分子生物学的検討 11. 自己免疫性消化器疾患患者のリンパ球解析による免疫動態把握
	生殖医学 (未定) 担当教員： 碓井 宏和 (准教授)	1. 絨毛細胞の機能分化・エピジェネティック制御についての研究 2. 胞状奇胎の遺伝学的診断と侵入奇胎の発症機序についての研究 3. 非侵襲的出生前遺伝子診断法についての研究 4. 妊娠高血圧症発症機序についての研究 5. 婦人科腫瘍の早期診断マーカーと新規治療法についての研究 6. 子宮体癌の内分泌療法・妊孕性温存療法についての研究 7. 子宮筋腫・内膜症の原因に関する分子生物学的研究 8. マウス xenograft モデルによる子宮筋腫・子宮腺筋症に対する新規治療薬の探索研究 9. 不妊症の病態解明と生殖補助医療の新規治療方法に関する研究
	医学教育学 伊藤 彰一	1. 卒前医学教育のカリキュラム・教育法・評価法に関する研究 2. 卒後臨床研修の指導法・評価法に関する研究 3. 学習者の学習・キャリア支援に関する研究 4. 卒前・卒後医学教育の IR (institutional research) 研究 5. 教育・学習支援ツールの開発・研究 6. 教育者・指導者育成についての研究

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
展 開 医 科 学	脳神経内科学 桑原 聡	1. 臨床神経生理学：ヒト軸索イオンチャネルのin vivo解析 2. 神経免疫疾患の病態解析と新規治療開発に関する研究 3. 神経変性疾患の分子病態解析 4. 軸索伸展促進を介する新規神経再生療法の開発 5. プロテオミクスによる神経疾患バイオマーカーの探索と病態解析 6. 臨床自律神経学 7. 神経原性慣性疼痛の病態と治療
	脳神経外科学 *岩立 康男	1. 間脳下垂体部疾患の診断・治療の研究 2. 頭蓋底腫瘍の外科治療の研究 3. 顔面麻痺・三叉神経痛の外科治療の研究 4. てんかんの外科治療の研究 5. 脊髄脊椎疾患・脊髄空洞症の診断と治療の研究 6. 脊髄脊椎疾患の遺伝子診断の研究 7. 悪性脳腫瘍の診断と治療の研究 8. 脳腫瘍の遺伝子診断と治療の研究 9. 脳脊髄液循環異常の診断と治療の研究 10. 神経内視鏡による治療法の研究 11. 閉塞性脳血管疾患の血管内外科治療の研究 12. 脳動脈瘤の血管内治療の研究 13. 神経再生の研究
	分子腫瘍生物学 筆宝 義隆	1. マウスオルガノイドを用いた各種臓器発がんモデルの確立 2. オルガノイド発がんモデルを用いた発がん分子機構の解析 3. 各種臨床検体からのヒト消化器がんオルガノイド培養とその解析 4. 各種臨床検体からのヒト婦人科がんオルガノイド培養とその解析 5. ヒト・マウスがんオルガノイドを用いた薬剤スクリーニング 6. 新規のヒト検体・臓器からのオルガノイド培養法の確立
	脳神経内科学 山村 隆	1. 多発性硬化症の病態解析 2. 多発性硬化症の新規治療薬開発 3. 多発性硬化症の病態マーカーの開発 4. 免疫性神経疾患の誘導に関わる環境因子の解析 5. 神経系と免疫系のクロストーク 6. 視神経脊髄炎（NMO）の病態解析と治療
	重粒子線治療学 山田 滋	1. 炭素線的作用機序に関する研究 2. 炭素線治療技術向上に関する研究 3. 炭素線効果の定量的評価と向上に関する研究 4. 炭素線感受性予測システムに関する研究 5. がんの遺伝子変異と炭素線治療効果に関する研究 6. 免疫・炭素線併用療法の開発研究 7. 画像診断による炭素線治療効果評価に関する研究 8. 炭素線による正常組織障害の治療・防護に関する研究

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学	内分泌代謝・血液・老年内科学 横手 幸太郎	1. 内分泌代謝病学 ①内分泌・代謝性疾患における転写因子制御と疾患エピジェネティクス ②骨芽細胞・破骨細胞機能制御と骨代謝性疾患 ③ホルモン受容体と核内シグナルによる生体調節機構と破綻の分子メカニズム ④糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症 ⑤動脈硬化症発症機構の解明と新規治療法の開発 ⑥生活習慣病に伴う慢性腎臓病の成因と治療 ⑦脂肪細胞を用いた遺伝子／再生医療研究 ⑧血糖クランプ法を用いたインスリン作用および抵抗性の機序の解明 2. 血液病学 ①急性白血球発症の分子機構 ②骨髄増殖性疾患における骨髄線維化の分子機構の解明 ③多発性骨髄腫の薬剤耐性機序の解明 ④同種造血幹細胞移植療法の確立 ⑤Crow-Fukase 症候群の発症機構の解明と治療法の確立 ⑥造血器悪性腫瘍における新たな血清腫瘍マーカーの確立 3. 老化・老年病学 ①早老症のメカニズム解明と治療介入 ②サルコペニア・フレイルの予防と新しい高齢者医療の開発
	小児病態学 濱田 洋通	1. 小児内分泌疾患の分子機構解明とゲノム編集技術を用いた治療法の確立 2. 小児がんのがん免疫、がんゲノム研究、新たな細胞治療の開発 3. 川崎病の原因探索と治療法開発 4. 免疫疾患に係わる新規バイオマーカーの探索と機能解析 5. 小児アレルギー疾患の発症機構と予防法の開発 6. 新しいMRI画像解析技術を用いた疾患脳研究、脳定量解析 7. 新生児期・乳児期の感染症予防、予防接種の免疫原性に関する研究 8. 新生児疾患の病態・診断・治療に関する研究
	免疫細胞医学 本橋 新一郎	1. NKT細胞の抗腫瘍効果に関する分子メカニズム解析 2. がん免疫細胞治療の臨床研究 3. がん免疫細胞治療に関するバイオマーカー探索 4. 治療用免疫細胞の細胞規格研究 5. iPS細胞由来NKT細胞を用いたがん免疫療法の開発研究 6. 樹状細胞を介した免疫抑制機構の解明
	循環器内科学 小林 欣夫	1. 心臓血管疾患の再生治療 2. 心不全・高血圧の病態機序の解明および新規治療法の開発 3. 循環器疾患の臨床データ解析による疾患予測モデルの確立 4. 循環器疾患の画像診断 5. 虚血性疾患、不整脈に対するインターベンション

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
展 開 医 科 学	整形外科学 大鳥 精司	1. 頸椎症性脊髄症の病態解明 2. 腰痛の発生メカニズムに関する研究 3. 変形性膝関節症の病態解明 4. 変形性股関節症の病態解明 5. スポーツ医学 6. 整形外科疾患のMRI診断 7. 外傷・傷害の病態および治療に関する研究 8. 運動器バイオメカニクス 9. 上肢・手の外科疾患の病態解明 10. 足部・足関節疾患の病態解明
	運動器疼痛疾患学 佐粧 孝久	1. 運動器疼痛疾患の病態解明 2. 運動器疼痛疾患の疼痛機序の研究 3. 変形性関節症の早期診断法の確立 4. 整形外科におけるAIの関与
	口腔科学 鵜澤 一弘	1. 口腔癌における治療抵抗性克服に関する分子生物学的研究 2. 口腔癌におけるドラッグ・リポジショニングに関する基礎研究 3. 口腔組織・疾患におけるcollagen cross-linkに関する基礎研究 4. 歯・骨の増生と吸収に関する研究 5. 唾液腺の発生と再生に関する研究 6. 口腔のmicrobiomeに関する研究 7. 顎切除後の咬合構築・創生法に関する開発研究
社 会 医 学	公衆衛生学 尾内 善広	1. 多因子疾患（川崎病、炎症性腸疾患）の発症、重症化、治療への反応性に関与する遺伝要因の同定 2. 遺伝情報に基づく多因子疾患の精密医療の開発 3. 新型コロナワクチンに対する低抗体価、副反応リスクの遺伝要因に関する研究 4. 希少難病の病因・病態の解明および診断と治療に関する研究 5. COVID-19パンデミックによるがん医療受療行動への影響の分析
	環境生命医学 森 千里	1. 環境中の化学物質の生殖系への影響 2. 精子形成機構の解析 3. 化学物質の胎児移行とそのメカニズム 4. 体内蓄積化学物質の削減方法の開発 5. 化学物質曝露指標のバイオマーカー検索 6. 未来世代のための環境健康科学（サステナブル環境健康科学） 7. リスクアセスメント及びリスクマネジメント 8. 環境教育 9. ホルムアルデヒド曝露に関する研究 10. 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の追加調査研究
	環境労働衛生学 諏訪園 靖	1. 職域における健康管理に関する研究 2. 環境と人間との相互作用に関する研究 3. 有害物質の生態影響に関する研究 4. 微量元素の人体影響に関する研究 5. 職場におけるメンタルヘルスに関する研究

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
社 会 医 学	栄養代謝医学 櫻井 健一	1. 腸内細菌叢とヒトの健康 2. 胎児期環境とエピジェネティクス 3. 臨床栄養学研究 4. 小児血管機能に関する研究 5. 糖尿病合併症および妊娠糖尿病に関する研究
	分子病態解析学 田中 知明	1. 転写複合体解析およびエピジェネティクス研究 2. マルチオミクス解析・シングルセル解析による疾患病態 3. 疾患プロテオミクスとAIおよびデータサイエンス 4. 分子内分泌学とホルモン制御機構 5. 幹細胞制御機構と老化シグナル 6. ES・iPSからの内分泌器官分化誘導 7. 新しい遺伝子診断・遺伝医療・検査システム構築 8. 質量分析技術の臨床検査応用
	法医学 岩瀬 博太郎	1. 画像診断の法医学への応用 2. 薬物分析方法の開発と応用に関する研究 3. 寄生生物のDNA型解析による身元不明死体の出身地推定に関する研究 4. 疾患DNAの解析による突然死診断に関する研究 5. 過酸化脂質の各種病態への関わりに関する研究 6. 所謂無理心中（他殺後自殺）事例の収集とその傾向の分析に関する研究 7. 千葉県内のChild Death Reviewに関する研究
	医療情報学 (未定) 担当教員： 鈴木 隆弘（准教授）	1. 電子カルテシステムの構築 2. 医療情報の共有による地域連携 3. インターネット診療システムの開発 4. 巨大医療データベースの構築 5. 電子カルテへのテキストマイニングの応用 6. 診療支援システムの開発 7. 医療情報の医療経営への応用
	精神医学 伊豫 雅臣	1. 臨床精神薬理学 2. 精神疾患の病態解明とバイオマーカー開発 3. 精神疾患の治療法開発 4. 認知行動学 5. 司法精神保健 6. 地域精神医療システム
	認知行動生理学 清水 栄司	ストレスフルな情報化社会で、こころと脳が適切に機能するために、バランスの良い認知と行動と感情と注意の連動に関するメンタルヘルスを幅広い観点から研究する 1. 認知行動療法のランダム化比較試験などによる効果検証の研究（医療、保健福祉、教育、産業など） 2. 脳画像、脳波、電気刺激等の脳科学研究 3. デジタルセラピューティクス（DTx）「アプリを用いたデジタル治療」に関する研究 4. 認知科学・行動科学・心理学・精神科学・脳科学・記憶と学習等に関する研究

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
社 会 医 学	神経科学 橋本 謙二	1. 精神神経疾患のバイオマーカー 2. 精神神経疾患の病態解明と新規治療法開発 3. 即効性抗うつ薬 R-ケタミンの作用機序解明 4. 麻薬・覚せい剤精神病の病態解明と新規治療薬開発 5. 精神神経疾患のモデル動物開発 6. 脳機能における D 型アミノ酸の役割
	司法心理学 (未定)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 非行少年・犯罪者のアセスメント 2. 非行少年・犯罪者の処遇論 3. 非行少年への心理援助的関与 4. 非行と虐待の関連
	司法精神保健学 五十嵐 禎人	1. 医療観察法の運用 2. 触法精神障害者の処遇システムの国際比較 3. 精神障害者の人権擁護 4. 刑事責任能力の判定 5. 成年後見制度における能力判定 6. 犯罪者の心理学的アセスメント 7. 刑務所収容者の精神保健
	応用精神医療学 渡邊 博幸	1. 精神神経疾患・薬物療法手順の開発 2. 精神神経疾患における再発予防法の開発 3. 精神神経疾患患者への多職種サービスモデルの開発
	精神神経科学 岡田 俊	1. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症の病態を解明する 認知科学, 神経生理学的研究 2. 自閉スペクトラム症を初めとする神経発達症の病因を解明 する遺伝・分子生物学的研究 3. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症に対する治療介入, 支援技法に関する臨床研究 4. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症に併存する精神・ 神経疾患の病態, 治療介入に関する研究 5. 難治性トウレット症の病態と評価, 脳深部刺激療法や心理 療法などの治療介入に関する研究 6. 児童・青年期の精神疾患の病態と治療に関する臨床研究 7. 神経発達症 (発達障害), 精神疾患の患者家族のメンタル ヘルスと介入に関する研究 8. 児童・青年期の精神疾患, 神経発達症 (発達障害) に関す る調査研究

(別表)

指導教授別研究テーマ

総合薬品科学専攻

備考 ※の担当教員は令和5年4月1日以降変更予定

研究領域 指導教授	研究テーマ
薬化学 根本 哲宏	1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. エピゲノム異常制御の為に機能性分子合成
薬品合成化学 (未定) 担当教員： 荒井 秀 (准教授)	1. 遷移金属，希土類金属を利用する新反応の開発と不斉合成への応用 2. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製 3. 新規複素環ライブラリーの開発を目的とする固相及び液相コンビナトリアル合成法の開発
中分子化学 石川 勇人	1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種（創薬シード分子）の追求（主に中分子天然物の単離，精密構造解析，構造変換） 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究（不斉全合成，化学変換，構造修飾，効率的供給法の開発） 3. 創薬先導化合物の創製（天然物・合成品化合物ライブラリーを活用したメディシナルケミストリー研究，作用発現の分子機構の解明）
活性構造化学 ※石橋 正己	1. 生物活性天然物の探索と構造研究 2. シグナル伝達分子を標的としたスクリーニング，天然物ケミカルバイオロジー 3. 宿主免疫応答と関連した細菌感染制御の分子機構の研究，抗微生物活性をもつ天然物ライブラリーのスクリーニング法の開発
製剤工学 森部 久仁一	1. 難水溶性薬物の溶解性を改善する特殊製剤の開発 2. 固体 NMR による製剤評価技術の確立 3. ナノ製剤の物性評価法の開発 4. 薬物過飽和挙動の解明
薬品物理化学 西田 紀貴	1. 動的立体構造解析に基づくタンパク質の機能解明 2. 細胞内 NMR 計測法の開発と細胞内生命現象の解明への応用 3. 複数の構造生物学的手法を組み合わせたタンパク質構造解析
理論創薬 (未定) 担当教員： 星野 忠次 (准教授)	1. 構造解析に基づいた抗ウイルス薬の論理設計および有機合成と活性評価 2. 大規模計算機スクリーニングによる医薬先導化合物の探索 3. 結合構造および相互作用解析を基盤とした抗体医薬の分子設計
遺伝子資源応用 山崎 真巳	1. 薬用植物における有用物質生産の分子機構解明 2. 統合オミクス解析による植物二次代謝のシステム生物学 3. 薬用植物の代謝工学および合成生物学への応用展開

研究領域 指導教授	研究テーマ
生化学 伊藤 素行	1. 細胞間情報伝達機構 2. 神経細胞の分化と行動の発達機構 3. 細胞移動機構：形態形成とがん化 4. 細胞間情報伝達と代謝・老化 5. 老化と記憶低下
免疫微生物学 川島 博人	1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. 新規抗糖鎖抗体を用いた免疫関連疾患治療の開発 3. 高機能化抗糖鎖抗体の開発に基づく抗腫瘍免疫の賦活化 4. アレルゲンの糖鎖修飾に着目したアレルギー疾患治療法の開発 5. ムチンの糖鎖修飾と腸内細菌に着目した大腸炎発症機構の解明
遺伝子創薬学 中山 学	1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンデショナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究
分子画像薬理学 上原 知也	1. テクネチウム錯体の新規設計を基盤とする SPECT プローブの開発 2. 抗体やペプチドを利用した DDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプローブの開発 4. ガリウムを用いた PET プローブの新規開発
予防薬学 小椋 康光	1. 生命金属科学・メタロミクス研究 2. 生体による金属元素の動態・代謝の分子基盤の解明 3. 生体微量元素の新規分析法の開発
環境リスク 中島 大介	1. 多種・新規化学物質曝露の包括的把握・網羅的分析手法の開発に関する研究 2. 事故・災害時等の緊急環境調査手法の高度化に関する研究 3. 都市大気中の有害化学物質の長期トレンドに関する研究
環境リスク 小林 弥生	1. 分析毒性学的手法を用いた半金属元素の代謝機構の解明 2. 化学物質による健康影響評価のためのヒューマンバイオモニタリング手法の開発 3. 化学物質の曝露評価と生体影響
薬効薬理学 中村 浩之	1. セラミド代謝系酵素群の分子薬理学的解析と創薬標的としての薬理学的検証 2. セラミド、スフィンゴ脂質やその誘導体の生理・薬理作用の解析 3. ニーマン・ピック病 C 型、多発性硬化症、特発性肺線維症（IPF）などの希少・難治性疾患に対する治療薬の開発 4. 生体内情報伝達物質とその受容体、シグナル伝達機構、細胞応答に関する研究
薬物学 畠山 浩人	1. 免疫チェックポイント阻害剤の薬効・動態・副作用解析と治療最適化の研究 2. 高分子医薬やナノ DDS の体内・細胞内動態制御技術の開発 3. 温熱治療、光免疫療法の耐性メカニズム解明と治療法の開発

研究領域 指導教授	研究テーマ
生物薬剤学 伊藤 晃成	1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究
分子心血管薬理学 高野 博之	1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究
社会薬学 佐藤 信範	1. 薬剤師及び薬局機能に関する研究 2. 後発医薬品の評価に関する研究 3. 医薬品情報の収集・評価・提供に関する研究 4. 薬事及び保険制度に関する研究
実務薬学 関根 祐子	1. 点眼薬アドヒアランスの評価に関する研究 2. 内服薬の服薬と嚥下能力に関する研究 3. 化学療法剤の血中濃度測定による適正使用に関する研究 4. 薬剤師の健康サポート活動に関する研究
臨床薬理学 樋坂 章博	1. モデリング, AI を活用した疾患の長期進行の解析, 治療最適化の研究 2. 医薬品の経口吸収性・薬物相互作用に関連した薬物動態学的研究 3. メタボローム解析等を利用した細胞間コミュニケーションの研究 4. 研究対象疾患はがん, 循環器系疾患, 中枢神経系疾患, 感染症など
医療薬学 石井 伊都子	1. 特殊な病態における薬物投与設計に関する研究 2. 効果及び副作用の解析による薬物治療の提案に関する研究 3. 高脂血症における薬物動態に関する研究 4. 血管の異常に関する薬物代謝の変化